

講義コード		科目区分	基礎教育科目
(フリガナ)	レキシ	(フリガナ)	セオ タカシ
授業科目名	歴史②	担当教員名	瀬尾 尚史
英文授業科目名	History		
基準年次(開講期)	1年(後期)	履修形態	選択
曜日/ 時限/ 講義室	金 4 限 / 浅草		
授業の方法	講義	授業の方法 (詳細情報)	講義
単位	2	週時間	2
授業のキーワード	映画史、サイレント映画、トーキー映画、アニメーション、国際映画祭		
授業概要・目的	この授業では、日本映画史を検討し、19世紀末に欧米から日本に輸入された映画が、どのように発展していったのかを概観する。それを通して、次の二点を習得することを目的としている。 ① 日本映画史の基礎的教養を習得すること。 ② 映画史研究の基礎的方法論に触れること。		
到達度評価の評価項目	20世紀の日本の歴史と、それぞれの時代を代表する映画作品および映画の特徴を身につけている。歴史と映画の関係性についてまとめ、そのことについて自分の言葉で意見を述べることができる。		
授業内容			
第1回	イントロダクション 授業の進め方と、歴史を学ぶことの意義について。		
第2回	映画の創成期(映画の発明と、日本への映画伝来) リュミエールのシネマトグラフと、その日本への伝来について。		
第3回	サイレント映画の発展(1910~20年代) 「紅葉狩」に始まる日本映画の始まりと、演劇からの影響について。		
第4回	第一次黄金期の日本映画(1930年代) サイレントからトーキーへの移行と弁士の没落について。		
第5回	戦時下の日本映画(1941年~1945年) 映画統制と、特殊撮影・アニメーションの始まりについて。		
第6回	占領下の日本映画(1945年~1950年) GHQによるフィルム検閲の影響について。		
第7回	第二次黄金期の日本映画①(1950年代前半) 独立の回復による時代劇の復活と、映画による戦争体験の回顧について。		
第8回	第二次黄金期の日本映画②(1950年代後半) 第五福竜丸の被爆と「ゴジラ」の誕生について。		
第9回	映画産業の衰退と新しい波①(1960年代前半) 高度経済成長とテレビ普及の映画への影響について。		
第10回	映画産業の衰退と新しい波①(1960年代後半) 映画表現の多様化とコメディ・シリーズについて。		
第11回	スタジオシステムの解体(1970年代の日本映画) 映画表現の更なる先鋭化と、黒澤明の低迷について。		
第12回	インディーズ映画の全盛(1980年代の日本映画) 新人監督たちと、アニメーションの飛躍について。		
第13回	日本映画の現在①(1990年代の日本映画) 国際映画祭における新しい日本映画の台頭と、北野武の出現について。		
第14回	日本映画の現在②(2000年代の日本映画) 映画のデジタル化と、宮崎駿の快進撃について。		
第15回	まとめ 芸術の歴史を学ぶ意義と、その課題について。		
教科書・参考書等	四方田犬彦『日本映画110年』(集英社新書)		
授業で使用する機器等	毎回、映画作品の抜粋を鑑賞する。		
予習・復習へのアドバイス	参考文献を読むことはもちろん、授業で取り上げた映画作品について調べておく。		
履修上の注意・受講条件等			
成績評価の基準等	課題レポート(70%)と授業に取り組む姿勢(30%)によって評価をする。		
メッセージ	言うまでもないことですが、授業中の私語、スマホの使用、遅刻は厳禁です。		
オフィスアワー	質問等は、授業の後に対応します。		
その他			